

新島の火山活動解説資料（令和元年 12 月）

気象庁地震火山部
火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。
噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・ 噴気など表面現象の状況（図 1）

式根監視カメラ（丹後山の西南西約 4 km）による観測では、噴気は認められません。

・ 地震や微動の発生状況（図 2－①②、図 3）

新島付近を震源とする火山性地震の発生は少なく、地震活動は低調に推移しています。
火山性微動は観測されていません。

・ 地殻変動の状況（図 2－③④、図 4、図 5）

GNSS 連続観測及び傾斜計による観測では、火山活動によるとみられる変動は認められません。



図 1 新島 丹後山周辺の状況
(12 月 27 日、式根監視カメラによる)

この火山活動解説資料は気象庁ホームページ (https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php) でも閲覧することができます。

次回の火山活動解説資料（令和 2 年 1 月分）は令和 2 年 2 月 10 日に発表する予定です。

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土地理院、東京大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所、東京都及び公益財団法人地震予知総合研究振興会のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 25000（行政界・海岸線）』『数値地図 50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号：平 29 情使、第 798 号）。

【計数基準の変遷】		
A型地震	2010年10月1日（観測開始）～	瀬戸山南から半径約8km、深さ約20km以内
B型地震	初期 2010年8月2日～2013年9月30日	瀬戸山南振幅0.8 μ m/s以上
変更	2013年10月1日～	瀬戸山南振幅4.0 μ m/s以上

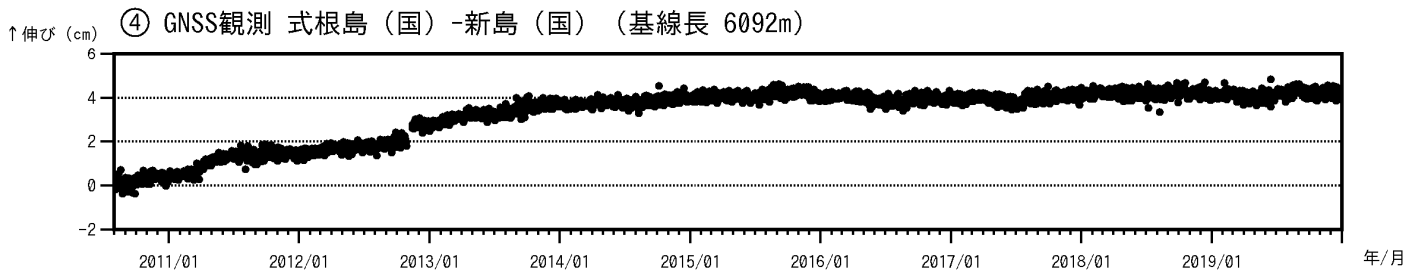
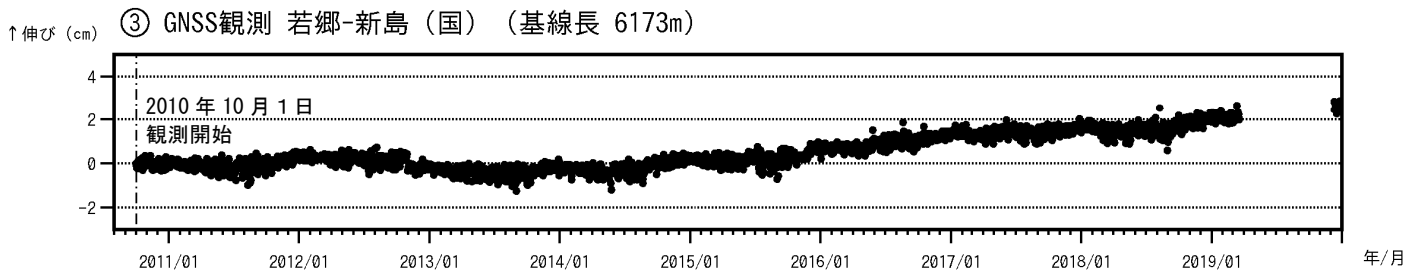
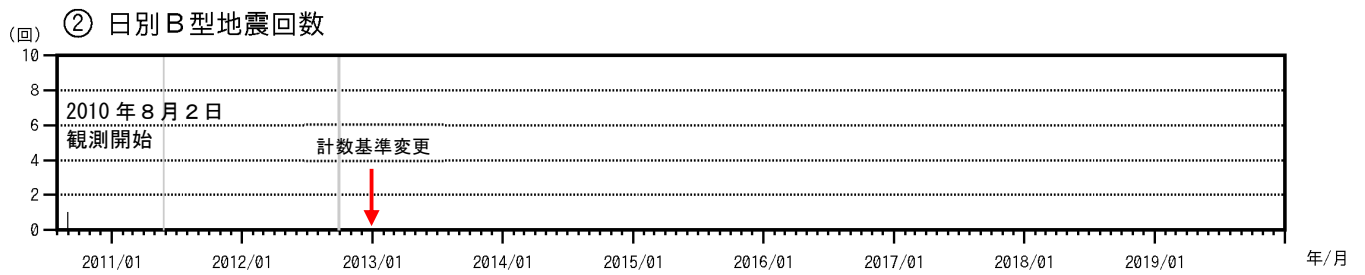
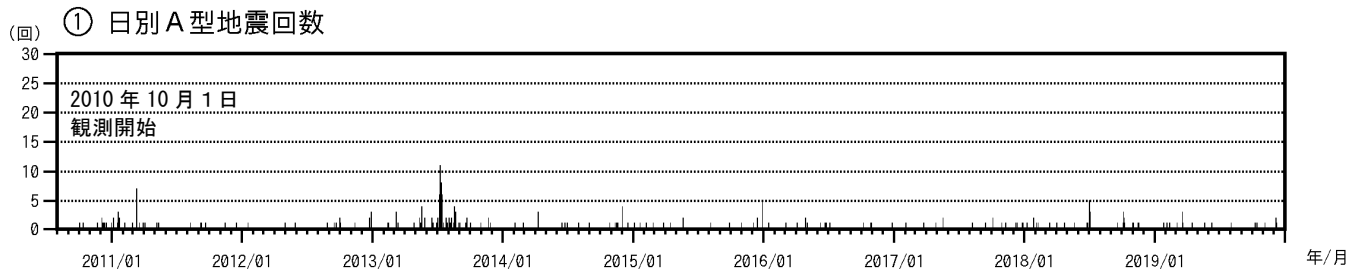


図2 新島 火山活動経過図(2010年8月2日～2019年12月31日)

②のグラフの灰色部分は機器障害のため欠測を示します。

③、④のグラフは図5のGNSS基線③、④に対応しています。また、グラフの空白部分は欠測を示しています。

- ・新島付近を震源とする火山性地震の発生は少なく、地震活動は低調に推移しています。
- ・GNSS連続観測では、火山活動によるとみられる変動は認められません。

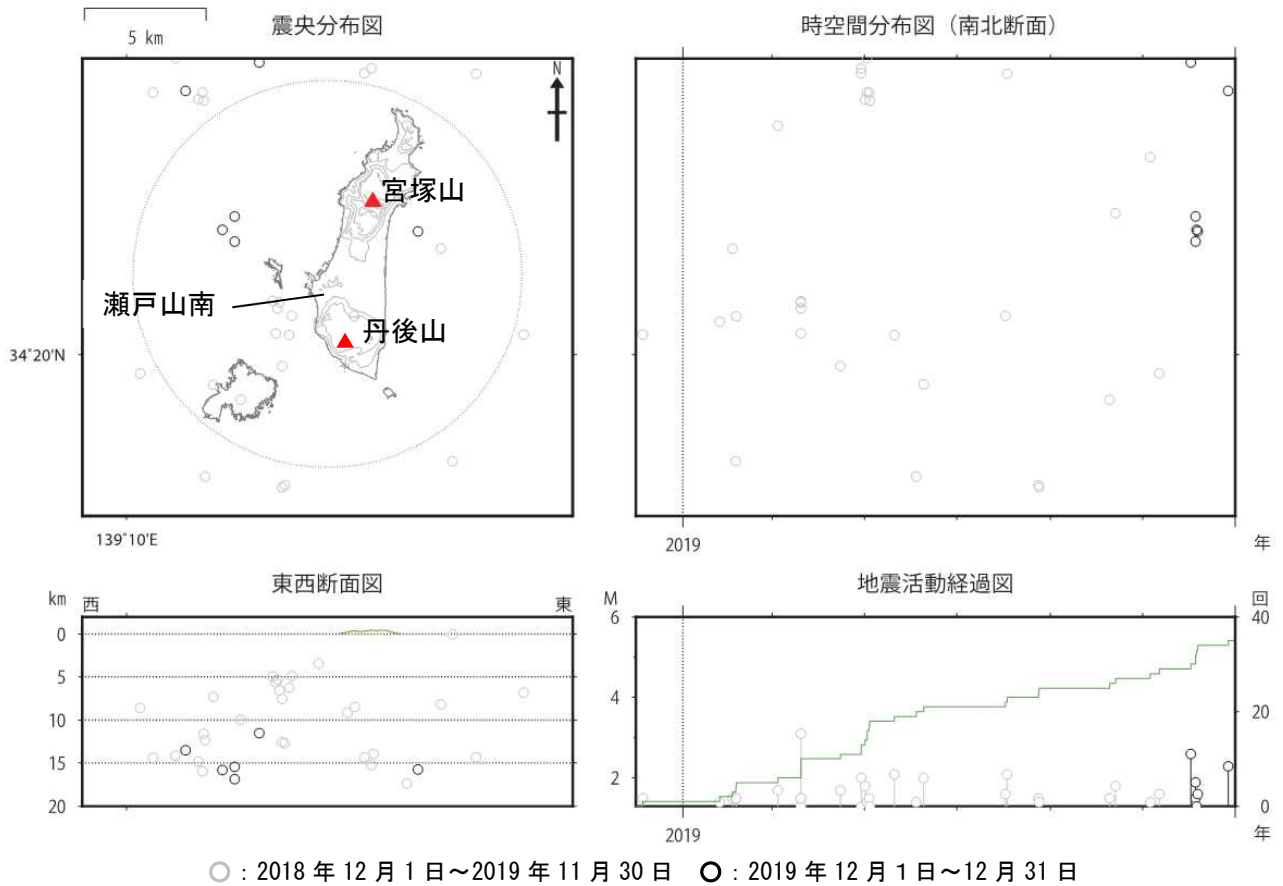


図3 新島 広域地震観測網による山体・周辺の地震活動（2018年12月1日～2019年12月31日）

広域地震観測網により震源決定したもので、深さは全て海面以下として決定しています。

M（マグニチュード）は地震の規模を表し、M1.3以上の地震を示しています。

図中の震源要素は一部暫定値が含まれており、後日変更することがあります。

計数対象（瀬戸山南から半径約8km、深さ約20km以内）以外の地震が含まれるため、図2-①の日別A型地震回数とは異なります。

震央分布図中の円は火山性地震の回数の計数対象（瀬戸山南から半径8km、深さ20km以内）の範囲を示しています。

・今期間、新島及びその周辺に震源が求まる地震は少なく、地震活動は低調に経過しています。

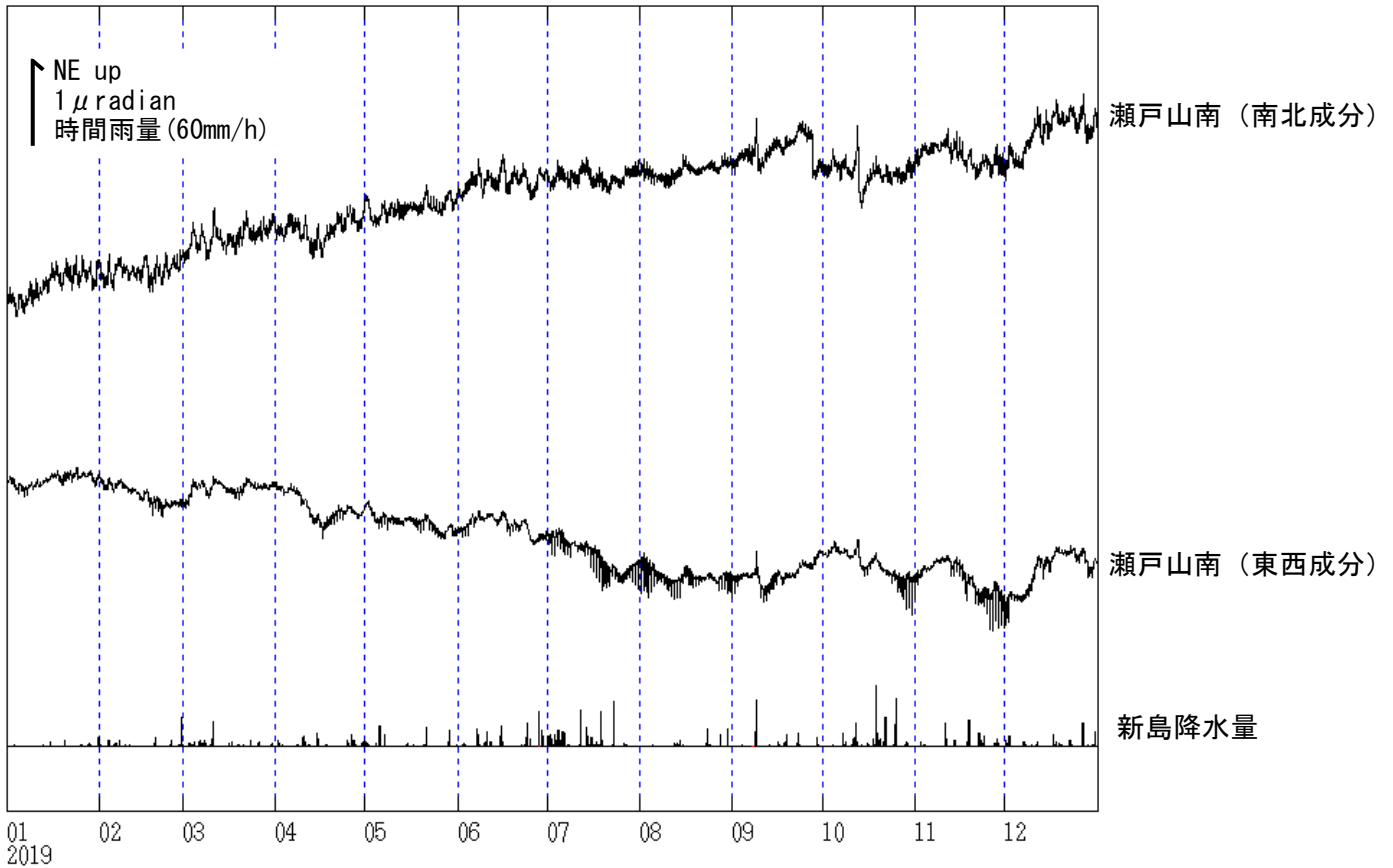


図4 新島 瀬戸山南観測点の傾斜変動 (2019年1月1日~2019年12月31日)

・火山活動によるとみられる変動は認められません。

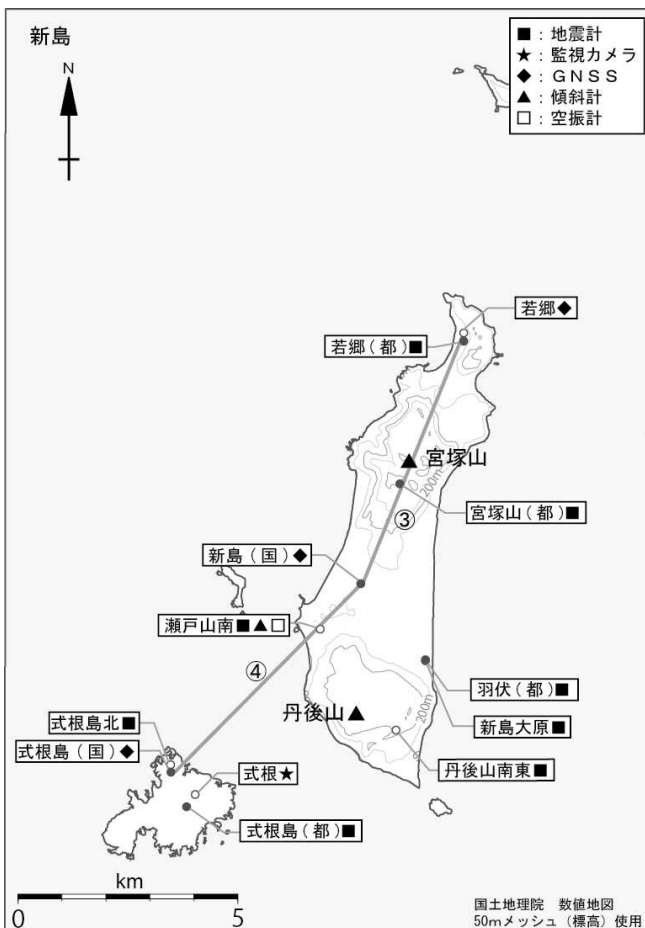


図5 新島 観測点配置図

GNSS 基線は図2の③、④に対応しています。

小さな白丸 (○) は気象庁、小さな黒丸 (●) は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
(国) : 国土地理院、(都) : 東京都